

## コラム①：5月に発生が予想される病害虫について

### 1 サトウキビにおけるアオドウガネ成虫の大量誘殺

宮古地区においては、平成19年度よりサトウキビの重要土壌害虫であるアオドウガネ成虫を大量誘殺することにより次世代の密度を低減する防除対策を実施しています。本種成虫は例年5月から発生し、6～7月にピークとなります。成虫の発生時期にあたる5～7月に約2千基の可動式および固定式誘殺灯(図1、2)が全域に設置され、成虫が大量誘殺されます。なお、アオドウガネ以外の害虫の防除効果は確認されていません。効率的に成虫を誘殺するため、誘殺灯を適切に管理しましょう。



図1 可動式誘殺灯



図2 固定式誘殺灯

### 2 ニガウリにおける軟腐病の防除対策

4月中旬に、出荷後のニガウリ果実から軟腐病が発生しました。ニガウリ軟腐病は、果実の腐敗や株の萎れなどの症状を呈する細菌性病害です。同じ病原細菌によって発症するトウガンの果実軟腐症では、収穫後時間において果実内部が液化し、悪臭を放つ病害で、正常果実として出荷した場合でも輸送途上や市場等で発症しています。栽培・収穫時の管理が大切なので、下記の防除対策を徹底しましょう。

防除上注意すべき事項

1. 殺菌剤(銅水和剤)で予防する。収穫時には剤による汚れに注意する。
2. ハウスが高温多湿にならないように換気を行う。
3. 収穫に使用するハサミを次亜塩素酸などで消毒する。
4. 収穫や運搬する時には果実を丁寧に扱い、傷や汚れがつかないように注意する。



図3 持ち込まれたニガウリ果実



図4 病徴部を接種したジャガイモの腐敗状況